

【校長室より】

『哲也の部屋』 No. 1 [9/2 (金)]

お待たせしました。ようやくHPが整いました。大変遅くなり申し訳ありませんでした。今月から『哲也の部屋』ということで、学校生活や長和町の方々とのかかわりなどのなかで感じたことを、随想として書かせていただければと思います。不定期になりますが、気軽に読んでいただければ幸いです。

改めまして、今年度新校長として赴任しました 宮島 哲也 と申します。前任の関校長先生とはご近所で、20年来のお付き合いです。また、6年前まで武石小に7年間おりまして、この依田窪地域にはとても親しみがありません。ご縁を感じています。元気にがんばります。よろしく願いいたします。

23日の始業式の日朝、子どもたちが久しぶりに元気に登校をしてきました。皆、夏休みの宿題や持ち帰った荷物などをたくさん抱えるようにして、登校してきました。わたしがいつものように校門の所で迎えていると、4年生の女の子が高校生のお姉さんと2人で登校して来るのが見えました。「どうしたかな？」と思って近づいて来るのを待つと、お姉さんは、妹が作った大きな工作を持っていました。「おはよう。持ってきているんだ、ありがとう。」と声をかけると、「さすがにこれは無理だと思って。」とお姉さん。昇降口まで工作を運んでくれました。戻って来たので「ありがとう。学校遅れない？」と声をかけると、にこにこしながら「大丈夫です。」と答えて、歩いて帰っていったのでした。

なんだか、とっても爽やかな心持ちになったのでした。

先週の金曜日にはこんなことがありました。

放課後、4人の6年生が校庭でノックをして遊んでいました。(少しメンバーがちがいましたが、前日にもやっていました。) 玄関から出て声を掛けると、手を振ってくれました。間もなく一人の男の子のお迎えが来て、メンバーは3人になりました。わたしも校長室に戻りました。しばらくすると「校長先生、キャッチボールやろう!」と、一人の子が校長室の窓の外から声を掛けてくれました。「よし、やるか!」と、わたしはグローブを持って校庭に出て行きました。そして、2人ずつに分かれて、4人でキャッチボールをしました。わたしは、小学校4年生の時に、かわったばかりの担任の先生の声がけで、放課後校庭でノックをしてもらったことを思い出していました。

わずかな時間でしたが、童心に戻ることでできたステキな時間でした。